

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 5 号 (5 月 8 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Mリーグ山本戦勝利で県総体出場決定！

GW 後半の初日 5 月 3 日 (土) 村山地区リーグ (以降 M リーグと略記) の第三節 (最終節) 山本学園戦が行われました。山本と山東はここまで M リーグ 2 連勝のため、この試合が決戦となる。得失点差で山東の方が上のため、引き分けでも山東の M リーグ C ブロック 1 位が決まり、県総体の出場権を得る。ただし、やはり**勝ってスッキリ決めたい**。M リーグ第二節の山本ー山工戦をスカウティングし、山本が Y2A で山南などを破り「今期負けなし」なのもうなずけました。何と言っても、攻撃に勢いがある！ 対する山東も、これまで「今期負けなし」。**県総体前の最重要の試合**と位置付け、心の準備をして試合当日を迎えました。

会場は明正。人工芝。天気は快晴。最高の舞台が出来上がる。県総体前の最重要の試合ということを知ったか、山東応援団も駆けつけて下さり、部員の声に (チアの) 黄色い声援を加えてくださる。**チアに発奮したか、故障を抱えた選手も「今日は行きます」と気合が入っている** (カ〇ミ、タ〇ル)。OB 会からは清野会長、後藤報道局長がいつも通りいらっしやる。保護者の皆様、そして佐竹校長もいらっしやり、舞台は整う。さあ、決戦 9:30 キックオフ。

試合が始まると、五分五分の膠着状態ながら、相手スローイン時のマーキングが乱れ、遅れて対応した選手がファールを犯し、山東陣内の奥深く (山東のゴールを背にして左手奥、左 CK の近く) で FK を与える。「まずは相手のファーストチャンスというか、セットプレーを凌いでか」と選手を信頼しつつ眺めていると、ライナー性のボールをゴール正面で「ドフリー」の状態ですべて合わせられ、開始 1 分で失点。「ガラスの鼻」の骨折休養から明けたアカガワサンが「なんで誰も競らないんだよ」と怒りの声を上げる。**ヘディングで跳ね返すことを期待されマークを背負わずにゾーンで配置されている山東の選手は、何をしていたのか。長いボールなだけに、GK は前に出られなかったか。**今後の課題を公式戦で露呈させる。ただ、時間がたっぷりあるだけに、焦る必要はなし。今思えば、そのように切り替えることのできた失点時間の早さが、山東にとって不幸中の幸いだったか。

その後の展開は一進一退。徐々に山東ペースになりましたが、決定的シーンを数多く作っているともいえない。**左足の捻挫を抱えながら「左足で蹴らなければ大丈夫なんで」と強行出場したタツルが素晴らしい左足のロングパスを供給しチャンスを作ったりしつつも、山本守備陣、決定的シュートを打たせてくれない。**一番惜しかったのは、相手 DF ラインをコウタが左から右へ斜めにドリブルで切り裂き、GK との 1 対 1 を作ったシーン。コウタの良いところが出たんですけどね～。まあ、**次は決めてくれるでしょう。**攻勢をゴールにつなげられずにいると、逆に鋭いカウンターを浴び、数的不利 (ド不利) に陥るシーンも作られる。

山本の(守から攻への)切り替えの速さ、攻撃における勢いをまざまざと感じさせられる(もちろん、山東の選手の切り替えの遅さも感じさせられました)。ということで、五分五分の前半。

ハーフタイム時、細かな指示というより、「0対1で負けるのも、0対2で負けるのも同じだから、ガンガン行け」というような、アバウトな指示を出して選手を送り出す。その指示が功を奏したというか、高校生の試合の展開は読めないというか・・・後半始まると、山東の怒涛の攻撃が始まる。守りに入ったわけではないのですが、山東の立ち上がりの攻勢で山本は精神的にも受けに回ってしまったか。その立ち上がり、CKをクリロンがショートコーナーで受ける。こういうですね、**ピッチ内でのその場その場の自主的判断がサッカーの醍醐味**だし、(高圧的な指示で選手を雁字搦めにしていると誤解?されているかもしれない)私が選手に求めていることでもある。ともかく、機をみるに敏なショートコーナーからクリロンが中に切れ込み、右足でミドルシュート。そのシュートは思いっきり当たり損ねで、アウト回転(右足の外側にボールが当たり外側に曲がっていく回転)がかかる。その軌道を確認し、期待をせずに見ていると、ダフリ過ぎたことが功を奏したか、GKのセービングがゴール前にこぼれる。それを**ムンタリ**が押し込み、同点。前半開始早々の失点を後半開始早々の得点で帳消しにする。そして、山東の攻勢は続き、交代で入ったリンちゃんのスルーパスを抜け出し、GKも交わしてだったか、ともかく**ムンタリ**2点目。後半の前半で逆転に成功。その後も、山東ペース。山東守備陣の安定感が光る。一度、バランスが大きく崩れ、右サイドを破られたものの、それ以外はほぼ安心して観ていられました。山本は、後半勢いがなくなった、としか表現できない。後半山東の何が良かったのか、山本の何が悪かったのか、よくわかりませんが、ともかく前半の一進一退と比べものにならない後半の展開。途中、好選手⑦が故障でピッチを去ったのが山本としては痛かったに違いない。そして、山本DFがロングキックのバウンドボールを処理しようと思いついたタイミングを見計らい、**ムンタリ**が狡猾にも加速しボールをかっさらい、抜け出して3点目。**ムンタリ**、**ハットトリック**。その後、交代出場のエイジが粘ったボールを**リンちゃん**が豪快に蹴り込み、4点目ゲット。そしてタイムアップ。

**終わってみれば、4対1の山東の圧勝。**でも、**前半の戦いを観るに、実力差以上の点差がついたというのが正直な感想。**あの勢いを受け止め、後半盛り返した選手を頼もしく感じた一日となりました。ハットリ君のムンタリがMVPになるのでしょうか、**故障明けのアカガワサンの対人での強さ・リーダーシップには素晴らしいものがあった。**また、**クリロンが相手の長いボールを悉くヘディングで跳ね返してくれたのも、貢献度が高い。**クリロンは攻撃面で、例えばドリブルとかシュートなどのプレーで貢献してもいるし、その方が見栄えが良いが、サンペー(1年)、カツミ(2年)、サッチモ(2年)などがクリロンの前方で平気でヘディングをかぶる<sup>1</sup>のを見透かしたかのようにボールをヘディングで跳ね返し続けてくれた地味なプレーの数々の方が、印象的。要は、**後輩はそういうプレーをこそ見習ってほしい、**ということ<sup>2</sup>。あと、最近得点できずイラついていますが、**前線での粘り・ボール**

<sup>1</sup> ヘディングできずにボールを後ろに逸らすことを、「かぶる」と表現します。

<sup>2</sup> ちなみにクリロンは、入学当初、多くの入学生と同様、ヘディングが弱く、というかできず、競り合いにて期待させない選手でした。あのクリロンが、いまやヘディングでチームに貢献するくらい成長したことに感慨深いものを覚えます。

## **を収め散らすプレーでのコウタの貢献も大きい。**

応援団、保護者、OB・OG<sup>3</sup>の素晴らしい応援を得て、何とか県総体の出場権を得ることができました。ありがとうございました。早速今週地区総体がごさいます。M リーグを勝ち抜いたおかげで、Y1 在籍のチームと地区総体を戦うことができます。次の部報では、今号で褒められなかった（目立たなかった）GK ケッツンの出番が多くなることでしょう。応援よろしくをお願いします。

**5月10日（土）地区総体決勝トーナメント 東海大山形戦 11：05@落合スポセン北**  
**勝ったときには、右の11日の日程をご確認ください。**

---

<sup>3</sup> 卒業したてのOB ヨシタカとナラオカ、OG ミサキが応援に来てくれました。特に、ナラオカとミサキは勉強の合間を縫って来てくれました。お二人さん、勉強頑張ってね（ナラオカの髪がチャラくてちょっと心配になりましたが）。